



## 北の台小学校の3年生が今年も“くす玉作り”に挑戦

北の台小学校の3年生が、今年も地域との交流の一環としての授業で、7月1日(月)に“くす玉作り”に挑戦しました。

このくす玉作りは、一昨年から3年生の授業に取り入れられて今年で3年目です。当日は、午前10時40分からの3校時と4校時を使って、大上1区の中鉢さんが会長のさくら会のメンバー6名と、大上地区社協の市ノ澤会長以下3名の9名が学校を訪ね、1クラスに3名が担当して指導に当たった。



完成したくす玉

くす玉は、5枚の花びらを1花として12花で花ボンボりに仕上げるもので、1クラスは5人構成の6班に分かれ、班ごとの共同作業で作上げるもの。児童たちは真剣に折紙を折ってくす玉作りに挑戦し、3クラスの全班が時間内に完成した。その後、指導に当たった9名は児童と昼食を共にしながら親睦を深めていました。児童の中には『さっそく家へ帰って、お母さんと一緒にくす玉を作るんだ!』と話している子もいました。



熱心にくす玉を作る3年生(左から1組、2組、3組の皆さん)

## 綾北小の花壇の水やりを支援 7月13日(土)からの土・日・祝日を担当

綾北小学校は、教育の一環として10年前から“花いっぱい・花と共に”運動を展開しており、今や同校の伝統になっています。

学校では現在、ポリバケツでの水稻栽培を始め、花壇にはサルビア、キンギョソウ、ひまわり、菊など多くの花や、西瓜、さつま芋、へちま、そして3月の卒業生に贈る桜草まで育てています。



水やり説明会に参加の皆さん

ただ、平日は先生方が水やりを担当していますが、夏場の学校が休みの朝・晩の水やりは負担が大きいことから、同校の校区内である大上地区社協に協力を求められ、2区の宇井理事、4区の田村理事とブラザ綾北パートナーの鈴木会員、7区の岩月理事が中心となって水やり作業の支援が実現しました。

7月13日(土)午後5時に市ノ澤会長、木村副会長始め賛同者17名が同校に集まり、深谷校長から挨拶があった後、市ノ澤会長から『深谷校長の地域との交流を密にしたいとお話と、花を育てるといふ綾北小学校の良き伝統を守って頂きたいとの思いから、大上地区社協として、できる時、できる事を、楽しみながらの精神のもと、協力させていただきます。』という挨拶があり、早速皆さんはじょうろやバケツを使って水やり作業を行い、いい汗をかいていました。

今後は、土・日・祝日の午前7時からと午後5時からの1日2回の水やり作業が始まります。都合よい時に協力して頂ける会員の方は、それぞれの時間までに同校玄関前へ集合して下さい。作業時間は、数名で約30分です。